

友の会通信

洋学の歴史を楽しく学ぶ
津山洋学資料館友の会

2021 November No.9



箕作家墓所案内石柱除幕式（2～3 ページに関連記事）

CONTENTS

友の会創立 40 周年記念	
箕作家墓所整備事業を実施しました	・・・ 2・3
植栽ボランティア活動を実施しました！	
友の会のあゆみ ⑤	・・・ 4・5
史跡見学会を開催します	・・・ 6
冬季企画展を開催します	
編集後記	

友の会創立40周年記念

箕作家墓所整備事業を実施しました

解説板・標柱修繕、案内石柱設置



▲案内石柱を市へ寄贈し、小原会長から谷口市長へ目録を手渡しました。

◀新しい案内石柱を囲んで記念撮影。

友の会創立40周年を記念して行われた箕作家墓所整備が完了し、10月9日(土)に案内石柱の除幕と市への贈呈式が行われました。

式典はコロナ禍のため、少人数での開催となりました。来賓として谷口圭三津山市長、津山市連合町内会城東支部の小林正明支部長、同林田支部の寺本勝支部長が出席され、小原龍二会長のあいさつの後、市長へ目録を手渡し、谷口市長と小原会長の2人で除幕を行いました。

●整備事業の経過

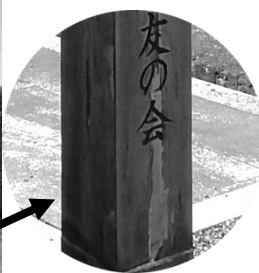
前号でもお伝えしたように、5月の紙上総会で40周年記念事業の実施が決定し、7月に役員会を開いて事業の詳細を協議しました。

その協議結果をふまえて、8月から整備に着手しました。石柱に入れる文字のレイアウトなどについて石材店と調整を進め、9月24日(金)に墓所の登り口にあった木製の案内標柱を撤去し、新しく石柱に立て替えました。

また、箕作阮甫生誕200周年記念事業として平成11年(1999)に整備した墓所内の解説板と標柱の木部劣化が進んでいたため、10月上旬に修繕作業を行いました。

植栽ボランティア活動を実施しました!

整備事業と並行して10月2日(土)には、前回の通信での呼びかけに応じてくださった会員の皆さんによって、墓所の草取りや周囲の生け垣の剪定作業を行いました。



▲◀ 修繕された解説板と標柱



▲ 9月24日 案内石柱建立
石柱の正面には「箕作家墓所」、左右の側面には方向を示す矢印と「坂道を登って最初の角を右折」と刻んでいます。



▲ 10月2日 植栽ボランティア活動（墓所の草取り・剪定作業）



ライデン事業 顕彰プレート除幕式 (1997年)

2021年 友の会創立40周年

未来に向けて記録に残しておきたい

～あんな出来事・こんな出来事～

友の会のあゆみ ⑤

「友の会のあゆみ」では、これまで会の設立から宇田川家の墓所移転事業やオランダ料理・ロシア料理のタベなどの歴史をたどってきました。

今回は、海を越えた事業である、ライデン事業—津田真道・西周顕彰事業—についてお話を伺いました。

小林圭子編集委員 ライデン事業について教えていただけますか？

下山純正顧問 ライデン市とは、オランダのアムステルダムアムステルダムの少し南にある町のことです。津田真道まねち(津山市出身)と西周しゅうしゅう(津和野町出身)は、幕府留学生として幕末の2年間、このライデン市にあるライデン大学のシモン・フィッセルシモン・フィッセルン教授の許で学んでいます。この2人の功績を称えようと、津山市と津和野町が合同でライデン市に顕彰プレートを設置したのがライデン事業です。津山市にとっては初めての本格的な海外事業となりましたね。計画を立てたのは、私が38歳くらいの時でしたが、紆余曲折があつて実行までには6〜7年くらいかかりましたね。

渡部紀子編集委員 7年も！事業の詳細を教えてくださいませんか？

下山 以前から、洋学資料館の専門職として一度はオランダの地を踏んでおかなければと考えていました。そこで洋学史学会の地方大会を津山市に誘致した平成4年、懇親会に永礼達造市長を招いた際、この計画を持ち出しました。学会の先生方にも「それは大変良いこと！」と応援していただいたんですね。その後、市長の許可を何と

か取りつけ、市長名でライデン市長へ顕彰プレート設置依頼の手紙を出すことになりました。この時は、津山市単独の計画だったんですよ。ところがライデン市から返事がなかなか返って来ない。そのうち市長も替わり、手紙を出した事も忘れかけた頃、ライデン市から「プレート設置を許可するので、事業を進めてください」との返書が届いて大変驚きました。

小林 聞いていただけでもわくわくしてきますね。

下山 私は、これで事業を進めることができると思いましたが、実際はそんなに簡単ではありませんでした。市長も代替わりし、議員や職員が海外に公務で行くことも難しい時代になっていたんです。説明に回ってもなかなか受け入れられず膠着状態に陥ってしまいました。しかし、津山市が依頼し、ライデン市がそれに応えて許可を出してくれているわけですから、何とか事業を進めなくてはいけません。そこで、津山市の単独事業とはしないで、津田真道と同時期に留学していた西周の出身地である島根県津和野町を巻き込んで、合同で事業を推進してはどうだろうか

かむ思いで連絡を取ってみました。**渡部** 津和野町の反応はどうだったんですか？

下山 津和野と言えば森鷗外の出身地です。津和野町長中島巖氏からは、森鷗外の有名な著書「舞姫」の舞台になったドイツのベルリン市ミッテ区(中央区)と数年前に姉妹都市提携を結んでいるので、ドイツを表敬訪問したあと、オランダを回り西周を顕彰できるというのは大変効率が良い。よって、ライデン事業に参加したいという明快な回答をいただきました。その後すぐ、大阪に向いてオランダ総領事を訪ね、本事業の顧問になっていただくこと了承を得ました。お膳立てが全て整ったところで、再び中尾嘉伸市長へ説明にまいりました。今思い返しても無謀な話でゾクゾクしますね。当時の影山脩祐館長が、責任は取るからやってみると仰ってくださいだったので、意を強くして無我夢中でやれたわけですが、津和野町と在大阪・神戸オランダ総領事館を巻き込んだことで、津山市もようやく本腰を入れる事になったわけです。**小林** と言うことは、ここまでのお話は前置きですね。いよいよライデン事業の全容を教えてください。

下山 この事業を推し進めるために「津田真道・西周顕彰委員会」を立ち上げ、津山市や津和野町で協議を重ねました。多くの方からいろいろなアドバイスもいただきました。プレートを設置場所は、現在、ライデン大学の学生寮として使われていますが、国指定重要文化財だったので、その建物に穴を開けてプレートを設置しようというのですから、その許可が出るまで時間がかかります。返書が遅れたのも当然でしたね。製作したプレートは、オランダ総領事館の文化担当だったハンス・カイパーズ氏に「オランダに帰国する際、この顕彰プレートを持ち帰って、ライデン市に事前に設置してくれるよう依頼してくれないか」と大阪の居酒屋で頼みましたよ。彼は快く承諾してくれて、自らプレートを持って帰国し、ライデン市とも交渉してくれました。ですから、あの重いプレートの送料も必要ありませんでしたよ。ハンスとは、今でもお付き合いさせてもらっています。彼はのちにライデン市にあるシーボルトハウス館長に就任し、津山洋学資料館の新館開館時には来館して、洋学資料館とシーボルトハウスの友好提携館協定を結ぶことができました。これもラ

イデン事業での彼との出会いがあったからだと思っています。
小林 ライデン市訪問はいつだったんですか？

下山 平成9年(1997)10月13日に津山を出発して、翌日関西国際空港から11時間ぐらいかかってオランダのスキポール空港に着きました。顕彰プレートの除幕式は10月16日です。ライデン大学のラーペンベルグ通りで行われました。津山市からは市長や議長ら5人が参加し、津和野町からは町長ら4人が参加しました。特命全権大使の池田維氏、ライデン市長のC・H・フーコープ氏、アムステルダム日蘭友好協会の会長も出席されました。レセプションはライデン大学のアルセナル広場へ



ライデン大学のアルセナル広場でのレセプション

料理をケータリングしましたね。会場にはライデン市に近いホームステッドという町から、市民オーケストラの皆さんが応援に駆けつけてくれました。以前、ホームステイをしながら日本全国を回って演奏旅行をした際、津山でも演奏会やホームステイをしたことがあって津山市がライデン市で顕彰事業を行うというニュースを聞いて駆けつけてくれたんですね。嬉しかったですね、大変な盛り上がりでした。ハーグにある日本大使館を表敬訪問したり、国際司法裁判所も見学に行きましたね。ライデン市も大いに歓待してくれましたよ。この時ほど、人と人のつながりの大切さを感じたことはありませんね。本事業は、私の洋学資料館人生のハイライトの一つと言っても過言ではないですね。
渡部 ライデン事業に友の会はどのように関わったのでしょうか？

下山 友の会では、この事業に合わせて「オランダの学園都市ライデンとシーボルトの故郷を訪ねるヨーロッパの旅」という欧州旅行を計画しました。8日間の旅行日程の中に除幕式やレセプションを組み込んで募集し、17名が参加されました。山陽新聞の記者も同行取

材して、この事業の詳細を全紙面カラー版で2回にわたって報じてくれました。島根県津和野町も関係していたことから、大阪から九州北部福岡あたりの各新聞にも掲載されたんですよ。当然、オランダではテレビ放映されたり各新聞にも掲載されましたよ。このように、友の会でもやろうと思えば、こんな企画もできるんですね。今はコロナ禍でなかなか難しいですが、とにかく計画する人たちの心意気次第でどんなことでもできる気がします。この事業を通じて、市民の皆さんにも、友の会の活動を広く知っていただけるきっかけとなったと思います。

小林・渡部 コロナが落ち着いたらこんな夢のある事業を計画したいですね。



欧州旅行に参加し、ライデンの除幕会場に到着した友の会会員ら

第34回友の会史跡見学会を開催します!

募集開始は11月20日(土)から

「津山城下の史跡を訪ねて(城下編)」

今年の史跡見学会は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、昨年同様にバスは利用せず、地元で開催することになりました。

今回は12月5日(日)に歩いて津山城下に残る史跡を訪ねます。

11月20日(土)午前9時から電話で応募受付を開始します。皆さまお誘い合わせのうえ、ふるってご参加ください!

開催日 令和3年12月5日(日)

参加費 500円(予定)

保険代、資料代などを含みます。

※昼食はありません。

定員 20人(先着順)

募集 令和3年11月20日(土)

午前9時から受付を開始します。先着順で定員になり次第、締め切らせていただきます。

コース

郷土博物館(9時集合・出発) ↓ 作州種痘館跡付近 ↓ 久原躬弦・茂良生誕地 ↓ 芳村杏齋開業地 ↓ 磯野計生家跡 ↓ 久原甫雲屋敷跡 ↓ 藩主夫人儀姫の墓 ↓ 宇田川興齋旧宅跡 ↓ 郷土博物館(12時帰着・解散予定)

新型コロナウイルス感染症拡大の状況によっては、中止や時間を変更する場合があります。



▲ 儀姫の墓



▲ 久原躬弦・茂良生誕地

冬季企画展を開催します

生誕200年記念 宇田川興齋

会期: 11月27日(土) ~

令和4年2月20日(日)



宇田川興齋 (1821~1887)

宇田川家は、玄随・玄真・榕菴の三代が有名ですが、榕菴の跡を継いだ興齋も、洋学者として様々な活躍をしています。

箕作阮甫とともにペリーが持参したアメリカの国書の翻訳を行い、ロシア使節プチャーチンとの交渉にも尽力。写真鏡や電信機の実験に取り組み、医師としては藩主の子どもたちに天然痘予防の牛痘種痘を行い、久原洪哉と共に藩主夫人儀姫の乳がんの治療にもあたりました。

本展では、興齋の生誕200年を記念し、約50点の資料を展示して、興齋の生涯と業績をご紹介します。ぜひご覧ください。

編集後記

箕作家墓所整備事業を予定通り実施できたことは、友の会にとつて大きな喜びです。本号は、この様子をお知らせしたく、2ページ増で発行しました。前号とあわせて読んでいただけると幸いです。また、この事業は、地元紙やケーブルテレビでも取り上げられ、市民へアピールすることもできました。

昨年箕作家墓所での拓本体験、そして今回の墓所の剪定作業や除幕式に参加する中で、「箕作家」がより身近になった気がします。皆様も洋学資料館にお越しの際は、ぜひ墓所にお参りください。

友の会の事業は、12月の史跡見学会、記念誌の編纂と続きます。資料館の魅力的な催しも計画されています。会員の皆様とご一緒できるのを楽しみにしています。(N)

津山洋学資料館友の会通信 第9号

令和3年11月
編集・発行

津山洋学資料館友の会

事務局 〒708-0833
津山市西新町5

津山洋学資料館内
☎0868-23-3324